

令和7年度 学校経営報告書

八王子市立山田小学校
校長 橋本 哲也

凡例 自己…自己評価 保…保護者アンケート 児…児童アンケート それぞれ肯定的評価

1 確かな学力を育む教育の推進【令和7年度重点】

数値目標		後期学校評価結果
「分かりやすい授業」保80%		保82% 児91.5% 自己81.0%
目標	重点的な方策	自己評価（○：成果 ▲：課題と対応策）
自主的・意欲的に学び合い、自ら考え判断して、実践できる子どもを育成する。	校内及び校外における研修の充実による授業力の向上	○週ごとのOJT年間計画を作成。カフェ研として指導教諭模範授業還元研修等を年6回実施。 ○小教研一斉研修会・分科会への参画、指導教諭模範授業、研究発表会、他校教諭授業参観のいずれかまたは複数に全教員参画。 ▲ねらいの明確化、指導と評価の一体化に向上の余地がある。意図的、計画的なOJT研修のさらなる充実を図る。 ▲全教員が管理職との対話を通して、キャリアプランに基づく校外における研修を設定し、確実に実践する。
	校内研究の充実	○主体性の育成に焦点化した研究グループを設定し、全教員が年間3回の相互参観校内研究授業を実施。 ▲研究グループ内の成果を全学年全教員で共有を図る。
	指導方法・指導体制の工夫	○5・6年で一部教科担任制を通年実施。1～4年でも、一部教科担任制や交換授業を3学期に複数学年で実施。 ○年間12回のパワーアップタイム（放課後補習学習）を実施。 ○3年以上にて、習熟度別算数少人数指導（3学級5展開）を通年実施。 ○外国語（活動）に専門性の高い専科教員を配置。 ○ALTを全学年で通年活用。 ▲一部教科担任制、交換授業の実施学年、実施期間を拡充。
	ICT機器・学習用端末活用の充実	○学習用端末の学習用コンテンツ、思考深化、共有ツール活用頻度の上昇。 ▲自己調整能力を働かせて学習用端末の学習用コンテンツを活用。
	指導内容の充実	○地域人材、地域資源を生かした体験的な活動を全学年で実施。 ○総合的な学習の時間の指導の充実。 ▲プログラミング的思考を意図する指導場面の増加。 ▲学力調査、ワークテストの結果に基づいた自己調整能力の育成。
	教室環境の整備	○投影スクリーンと板書を棲み分けて思考の過程を提示できる教員が多い。 ▲教室前面への掲示物等視覚刺激の更なる軽減。
	家庭での学習習慣の定着	○家庭学習のすすめを年度当初に ○学校HPをHome&Schoolと連携をさせ、自己調整能力の育成等啓発記事を毎日配信。 ▲やらされる宿題から主体的に取り組む家庭学習への思考の変換。

2 豊かな人間性を育む人権尊重教育の推進

数値目標		後期学校評価結果
「自他を認める」保80% 「人の役に立つ」児80%		保89% 自己90.5% 児77.7%
目標	重点的な方策	自己評価（○：成果 ▲：課題と対応策）
自分を大切に、みんなを大切にできる子どもを育成する	あいさつの励行、規範意識の醸成	○代表委員による全校あいさつ運動週間の年3回実施。有志児童（おはようフレンズ）と教員による毎朝のあいさつ運動を通年継続。 ○月に2度以上の全校朝会をオンラインで実施。校長講話、生活指導講話にて相談体制、自己肯定感の寛容、自己指導能力の伸張、メディアリテラシー指導を継続実施。
	教職員の組織対応、情報共有、資質向上	○相談できる大人がいない児童の解消要因の半数は相談できる教員の出現。 ○いじめ対応の時間年35回以上開催。生活指導夕会毎週金曜実施。 ▲児童の自己決定に寄り添う指導の一層の充実（引っ張り上げない指導）。
	道徳教育の充実	○価値項目（低18、中20、高22項目）を踏まえた道徳授業の実践。 ▲j考え、議論する道徳、自分事として考える時間を確保する道徳授業の一層の充実。
	特別活動の充実	○合意形成を図る学級活動（2）の実施。 ○自己有用感を育む異学年交流、係・当番活動の充実。 ▲子どもの自己指導能力育成に資するキャリアパスポートの活用。 ▲自己のキャリア形成に資する学級活動（3）の充実。 ▲学校行事における、小中学校の教育活動の中でしかできない取組の充実。

保護者連携の充実	○学校HPをHome&Schoolと連携をさせ毎日配信(生活習慣、自己肯定感、自己指導能力、メディアリテラシー)。
安心、安全な教育環境の整備	○保護者ボランティアによる清掃美化、フラワーロード・花壇整備の充実。 ○年度初め給食開始前にアレルギー対応研修実施。毎月の安全点検の確実な実施。 ▲放課後子ども教室の時間に不審者の敷地内侵入と児童への声掛け事案あり。多くの目で見守られている学校とするための保護者・地域ボランティアの更なる充実。

3 たくましく生きるための心と体の育成

数値目標		後期学校評価結果	
「体力の向上」保85%		保91%	自己71.4%
目標	重点的な方策	自己評価(○:成果 ▲:課題と対応策)	
強い意志とじょうぶな体をもち、すすんで行動できる子どもの育成	体育科の授業改善	○活動量を確保した体育授業の実践。 ▲運動の機能的特性(楽しさ)をより大切に授業改善。	
	体育的活動、家庭との連携	○寒冷期に外で体を動かすためのなわとび旬間、年2回の長なわ大会の実施。 ○体力テスト結果の返却時に体力要素の向上と発達段階の関係を保護者に周知し、家庭での体力向上を啓発。 ▲運動会等体育的行事における「する」以外のスポーツ志向(「見る」「知る」「支える」)の指導の充実。	
	食育、健康教育、保健指導の充実	○栄養士によるランチルームでの食育指導を全学級に実施。残菜量前年比減。 ○担任と養護教諭が連携した性教育指導の実施。養護教諭による健康診断時の保健指導の実施。学校保健委員会の内容(学校医への質問と回答)を保健だよりと学校HPで周知。 ○薬物乱用教室、いのちの教育での外部講師活用。	
	保護者連携の充実	○学校HPをHome&Schoolと連携をさせ毎日配信(生活習慣、八王子市・山田小の特別支援教育、校内別室指導)。	

4 個に応じた支援の工夫、特別支援教育の充実

数値目標		後期学校評価結果	
「個に応じた支援」保80%		保64%	自己81.0%
目標	重点的な方策	自己評価(○:成果 ▲:課題と対応策)	
特別支援教育を充実させ、支援の工夫を図るとともに児童の可能性の伸長を図る。	個に応じた指導の充実	○学校サポーター、エデュケーションアシスタントの活用を通して、個に応じた寄り添いが充実。 ○個別指導計画、すくてくシート(就学支援シート)の活用の充実。 ▲特別支援コーディネーター、不登校コーディネーターの業務負担が大きいこと、校務分掌の見直しを図る。	
	教育のユニバーサルデザイン化	○ICT機器の活用による視覚化、対話的な学びによる共有化には一定の成果。 ▲授業内容の焦点化、教室環境から刺激物を取り除くことには課題。OJTの充実や一部教科担任制、交換授業による学年経営の充実で解消を図る。	
	不登校対策、校内別室指導の充実	○別室として保健室等を活用したことで、複数児童が教室復帰を果たした。 ○学年別校内委員会を毎週開催。支援の方向を組織で確認する頻度が増えた。 ▲登校支援CNへの負担が大きいこと、ベースとなる校内マニュアルや校内委員会を通して、全教員が差異のない手立てを講じることに課題。	
	外部機関との連携	○放課後等デイサービス、都立特別支援学校、医療機関の主治医、フリースクールとの連携の機会増加。	
	保護者連携の充実	○学校HPをHome&Schoolと連携をさせ登校日毎日配信(、八王子市・山田小の特別支援教育、校内別室指導、HSC等の特性理解)。	

5 いじめを防ぐ取組、~~不登校対策~~の充実

★不登校対策の充実は「4 個に応じた支援の工夫、特別支援教育の充実」に記述

数値目標		後期学校評価結果		
「いじめ防止」保80% 児85%		保81%	児81.5%	自己90.5%
目標	重点的な方策	自己評価(○:成果 ▲:課題と対応策)		
人や集団とのかかわりを重視し、心の安定した指導を通して、いじめを許さない学年・学級の雰囲気	組織的な支援体制の充実	○いじめ対応の時間を毎週設定。全学年のいじめ、児童館トラブルを全教員で共有。 ○いじめにかかわる聞き取りの複数組織対応の着実な実施。 ○全校朝会校長講話の実施(相談できる大人)。		
	いじめ未然防止、早期発見のための対応	○ふれあいアンケート年3回実施。見守りシート(年度当初版・随時版)の活用。 ○相談できる大人の確保、いじめの芽の早期発見のための一部教科担任制、		

をつくりだす。		交換授業を5つの学年で実施。 ▲教職員によるいじめへの感度を高く保ち、未然防止策と早期組織対応への一層の注力。
	発達支持的生徒指導、課題未然防止教育の充実	○グループエンカウターの手法を取り入れた学級経営、道徳教育の充実。 ○全学年でメディアリテラシー教育、SOSの出し方教育を実施。 ○全校朝会校長講話による自他の課題分離の指導の継続的实施。

6 保護者・地域と連携した教育活動の充実

数値目標		後期学校評価結果
「連携した活動」保 80%		保 93% 自己 81.0% ★「情報発信」は保 96% 自己 90.4%
目標	重点的な方策	自己評価（○：成果 ▲：課題と対応策）
学校教育の公開や説明等により、保護者や地域の方々からの信頼を得て、教育効果をより高める。	地域人材、地域資源の活用	○総合的な学習の時間、生活科見学、地域社会科見学等の利活用の充実。 ○放課後子ども教室、地域自治会等による学校安全ボランティア、保護者等による読み聞かせ、学校清掃等ボランティアの充実。 ▲ボランティア活動への一層の保護者参画。H&S活用等による学校コーディネーター機能強化。
	地域運営学校の機能充実	○PTA、学校コーディネーターとの連携強化。 ○サタデースクールの再実施に向けた検討開始。
	保幼小連携の充実	○すくてくシートの活用、架け橋プログラムの作成、在園児・卒園生の情報共有等教職員間の連携強化。 ○保育園・幼稚園・認定こども園の園児と児童との交流、学校訪問の実施。
	開かれた学校の推進	○学校HP毎日更新による教育活動の目的配信。
	服務規律の遵守	○年3回の服務事故防止研修、服務ニュースレター・服務事故事例の活用による服務指導、体罰防止セルフチェックシートの実施。

7 特別活動の充実

★「2 豊かな人間性を育む人権尊重教育の推進」内に記述

8 校内研究の充実

★「1 確かな学力を育む教育の推進【令和7年度重点】」内に記述

9 小中一貫教育の充実（第七中学校グループ）

数値目標		後期学校評価結果
「小中一貫教育」保・児 80%		保 84.5% 児 55.6% 自己 57.2%
目標	重点的な方策	自己評価（○：成果 ▲：課題と対応策）
第七中学校区で年間3回の小中一貫教育の日を実施し、今までの成果を基にしてさらなる小中一貫教育を推進する。人的交流の活性化を推進する。	9年間を見通した指導	○中学校期でのSNSトラブル未然防止のためのメディアリテラシー教育の実施。 ○系統的なキャリア教育のカリキュラムを作成。 ○中一ギャップの軽減のため、高学年で一部教科担任制の通年実施。1～4年の複数学年で一部教科担任制または交換授業を3学期に実施。 ▲4校共通の学習スタンダード、生活指導スタンダードの確認と指導の充実。 ▲キャリアパスポートを活用したキャリア教育の一層の充実。 ▲学力調査の分析結果を共有し、ミニマム問題の確実な習得のための具体策の実施。 ▲児童への系統的な指導と価値付けを強化。
	人的交流の活性化	○中学校合唱コンクールに3校小学校6年生が参画。 ○年3回の児童生徒地域合同あいさつ運動の実施。 ○部活動改革に伴う第七中学校クラブ活動の見学計画を策定。 ○小学校運動会に第七中学校生徒が参画。 ▲児童生徒交流、教職員交流の一層の充実。
	青少対活動への参画	○第七地区、横山地区の青少対活動（クリーン活動・ロードレース・防災訓練等）への児童、教職員の参画。 ▲学校外の活動としての一層の活用。 ▲児童への価値付けを強化。